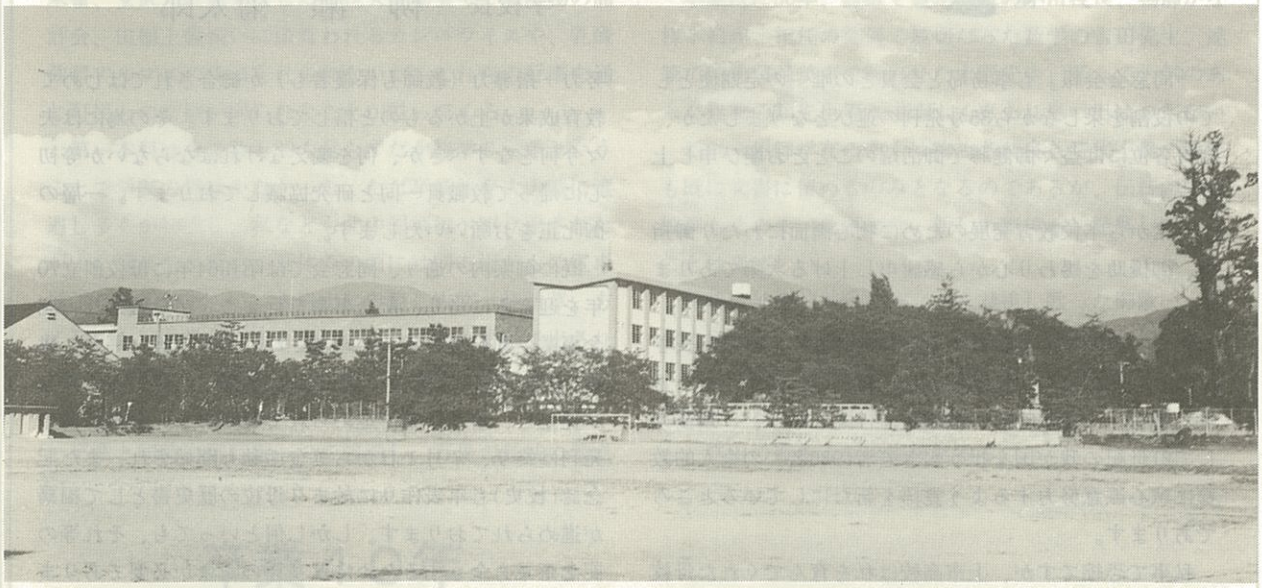
1987

同窓会会報

第35号

富山県立上市高等学校



記念会館建設に思う

同窓会長　藤　原　平　蔵

上市高等学校は創立70周年を昭和64年に迎え、県下的有名高校として、学校長教職員一体となり堅実な歩みを続けて居られることに、深く感謝するところであります。

日本は今や世界の経済大国へ、しかも第一位の長寿国となりました。

人生八十年のゆとりと安定のため、会員各位がそれぞれの場で生活の変動に対応し、立派な成果を挙げていられることは同窓会の誇りであります。

〝日本各地に活躍する

上市高校同窓会員こゝにあり〟

の姿勢を発揮し母校に学ぶ生徒の学習の場として、また同窓会員の生涯学習の場である記念会館建設のために、一万六千有余名の会員が一丸となり、鋭意努力邁進されることを、伏してお願いします。

会員の方々、より健康で、限りなき御発展を、祈念する次第であります。

創立70年を迎えるにあたって

学校長　柳　瀬　菊太郎

「同窓会会報」も事務局と会員との唯一の定期便としての役割を果しながら35号発刊の運びとなりましたが、会員各位には益々御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。

平素から本校教育発展のために物心両面にわたり御指導、御援助を賜わり心から感謝申し上げる次第であります。

さて、年度末の教職員の定期異動により、高見校長さんはじめ12名の方が転退任され、新たに15名が４月１日付で着任し、総勢82名の教職員が一丸となり、一致協力して21世紀の我が国を担うべき若者(935名）の全人的教育に誠心誠意努力するよう覚悟を新たにしているところであります。

私事で恐縮ですが、上市高校は私を育んでくれた母校であり、しかも３回目の奉職の栄に恵まれたことを深く心にきざみ、恩師、先輩、会員各位の御支援を得て重責を全うしたいと念じております。一層の御支援のほどお願い申し上げます。

私は着任以来、生徒諸君に如何にして「活力をもたせるか」で苦心しておりますが、生徒の持っている能力＋努力＋指導力（教師も保護者も）が総合されてはじめて教育成果が上がるものと信じております。その為には夫々今何をなすべきか、何を変えなければならないか等初心に帰って教職員一同と研究協議しております。一層の御叱正をお願いいたします。

既に御案内の通り、同窓会では昭和64年に母校創立70年を迎えるに当り、記念事業を行うことが発議され、記念事業企画推進委員会が組織され、夫々総勢、募金、建設、記念事業(式典)、記念誌会員名簿、監査の各委員会が発足し、着々作業が進められております。会員名簿の発刊は終り、７月１日から募金活動も開始され、また記念誌(校史)も年表作りに始まり母校の歴史書として編纂(さん)が進められております。しかし何といっても、それ等の記念事業を全うするためには多額の資金が必要であります。同窓会員各位には諸事御多端な時ではございますが趣旨に御賛同下さいまして記念事業が全うされますよう一層の御協力を賜わりますよう幾重にも懇願申し上げる次第であります。

すばらしい創立70年記念となりますよう祈念して御挨拶といたします。

＊＊＊＊＊＊＊ 思　い　出 ＊＊＊＊＊＊＊

卒業５０年

〝上農を愛す〟

上市農学校　第15回（昭和13年３月卒）

第一本科　日　下　勝　宣

私の修学した時代（昭和８年から13年）は、何も知らない少年の心にも何かひしひしと迫るものを感じながらそれでも最も輝いていた様に思う。

四線の学帽を目深にいただき、質実剛健の気概に燃えて桜並木を通学した。朝礼は全校生徒が校庭に整列し、校歌を斉唱し校訓である勤労、自治、向上を誓い、土井晩翠の作詞に陶酔した。又、三本杉の梢越しに立山連山を仰ぎ見たものだ。

この間、2.26事件、日中事変が発生し、軍事色が強化されて行くが、上海の戦線へ応召されたあの明るく実直な、藤縄慶夫先生が戦死され、白木の箱の無言の帰還を迎えたのを忘れることが出来ない。

学生時代では色々の行事があり、中でも修学旅行、海水浴、秋季軍事演習など、特に全校を4班（青龍、白虎、朱雀、玄武）に色分けした対抗大運動会や、農産物の品評会、田植上簇祝いに振舞われるカレーライスや、乳酸飲料アルプスの味は忘れられないが、これらの行事を通じ町民との交歓が図られたことが甦ってくる。

第一本科は生徒数も30人足らずだが修学5ヶ年ということで学友の絆はかたかった。ただ卒業後今次大戦に遭遇し多くが物故し、私なども北中国戦線へ駆り出されたがよく帰れたと思う。夏休みの頃には同方面からの電車通学者数名が語らい、大岩山に参籠し古文（徒然草、方丈記など）の学習に夜を徹したことがある。宿で出される冷い西瓜や、うどんがうまかった。こうした仲良しも多く戦死したのがおしい。

卒業と同時に柳行李一つで渡満し、万里の長城の基点天下第一関のある山海関税関に勤めることになったが、踵を接して北京大学に留学した学友石坂久忠君や、岩田教官に再会でき、又翌年卒業生の国木、平井、高橋君が来関し同一職場で働けたのが力強かった。青春の血をたぎらせた満洲の地も、北中国出征の地も、既に往時茫々となった。

卒業既に50年、謹厳で豊かな髯の小川校長、物静かな楳本教頭、担任の美髯で親切だった数学の吉田先生、達筆で国文読誦美声で酔わせた水野先生、若くて人気のあった作物の額先生等々、恩師にも恵まれ思い出はつきない。

これら恩師学友の多くは物故され良き時代上農の歴史も既に文書に留めるのみとなるのであるが、伝統の学風、校訓もそのまゝ受継がれ、新しい高校とし発展していることは喜ばしい。

往時少年達が白皚々の立山を凝視し歌った御歌……立山の空に聳える雄々しさに、ならえとぞ思う御代の姿も……当時摂政の宮であられた若き天皇の御心境に、今も感慨新なるものがある。

立山の被さる川原茱萸熟るる　　空桑

卒業４０年

〝温故知心〟

上市農林学校　第25回（昭和23年３月卒）

農業科　平井八郎

会報の原稿依頼をうけ、はたと当惑しました。作文能力がないということが第一の理由だが、四十年前の記憶がほとんど残っていないし、又、残しておきたくないことがあまりにも多い上農時代だったと思っているからです。だから書く意志も能力も持ち合せず、極力辞退しましたのに、引きうけざるを得なかった囲りの雰囲気に抗じ切れない根性のなさは、五十六才を過ぎてなお学生時代の弱虫そのまゝだと自笑しています。

さて、上農を離れて四十年、思い出したくない五年間でしたが、つらい、苦しいものを出してみることにします。昭和十八年四月第二種に入学〝撃ちてし　やまむ〟この言葉に象徴される日々でした。二十三年三月の卒業まで敗戦をはさむ歴史の大変革期に当ります。

担任の米沢先生の出征を上市駅（現在の消防署？）に見送ったことや養蚕室の沓先生、解剖室の山瀬先生、農場での土肥先生、白江先生、丸山農場で松根堀りやさつまいも作りの中で、畑に腰をおろしていて「さつまいもに謝れ」とどなられた井原先生のこわい顔等々、戦争遂行にむけ国をあげての体制の中、先生方はその方向で教育を考え、学生に接するしかなく、私たちも何も知らされないままに、ひたすら一億一心！そのままに忠実にそれに従がい、不思議にも心の緊張感と統一を保ちながら将来への志向はしっかり持っていたように思います。数学や国語や英語の先生方の顔がでてこないのも〝撃ちてし　やまむ〟の教育の結果なのかと思います。昭和二十年、敗戦の年は本科一年、戦後の混乱の中でどう過ごしたか記憶にありません。

苦しい、思い出したくないつらい時代であったが「鍬が光れば　心が光る」「米は八十八回丹精を込めてつくる命の源」の精神を植えつけられた上農時代に今は感謝の気持ちでいます。恩師の方々の中にはすでに他界された方も多いと聞きます。同級生でもすでに三名の方がお亡くなりになりました。人生五十年と言われた時代に育った自分たちにすれば、今、こうして四十年の集いをもてる幸せに感謝しなければなりません。〝温故知新〟現代をみる目を四十年前のにがく苦しい体験があればこそ、ほ

んとうに戦争はいけないとか、リンチに泣いたことがい じめを無くしなければならないという、平和への実践に結びつける歩みに大きな糧となっている上農時代を、大切にしなければと改めて考えて見ています。

卒業３０年

〝もっと何かを〟

上市高校　第９回（昭和32年３月卒）

普通科　巻野　喬

「青雲光る　大立山を……

たとえば、卒業以来、校歌をうたったり、白ずさんだりすることがどれほどあったろうか。たとえば、恩師や友をなつかしむほどに母校をおもったことがあったろうか。たとえば、また、わが子を母校にすすんで進学させたものがどれくらいいるのだろうか。たとえば、また、夏の甲子園をめざす県大会における母校の活躍にどれほどの熱い関心が寄せられるのだろうか。

はたして、「母校愛」のないところに「同窓会」が成り立つのだろうか。今、この稿を書くにあたっておもうのは、どうも懐疑的なことばかりのようだ。

いや、それでも、タバコをくゆらせながら、ゆらめきのぼる紫煙のかなたに目をやれば、はるか遠い日の風景のきれぎれが、いくつもいくつも、あざやかにそしてなつかしく思い浮かんでくるようだ。

「流れもつきぬ　上市川に……

登下校の折々に、上市川にかかる白龍橋や東橋から仰ぎ見た立山連峰・剣岳の偶景。青春のおもいをなやみながら、教室の窓からぼんやりと見ていたあの桜の落花。T先生の夏雲に呼びかけているようなあの話し振り。近づく試験に教室中が重いしずけさに満ちているときのあの秋蟬の声。O先生のスリッパの音がパタリパタリと教室に近づいてくるあの張りつめた冬の廊下。

「大空ひらく　三本杉を……

そういえばあの三本杉はもはや無い。亡くなられた先生方の名を耳にしたこともある。また、幽明の境を異にした友もいる。卒業してからはや三十年。そして母校創立七十年。母校のことをおもい、母校のためをおもうなら、……はたして何ができるのだろうか。そして、「同窓会」は、……。たとえば、一つ、小学区制の実現に向かって、もっと何かを、……。

卒業２０年

〝団塊の世代にあって〟

上市高校　第20回（昭和43年３月卒）

普通科　西田　保

世界戦争を戦って来た両親の元に生まれ、ベビーブームを呼び、そして小・中学校と校舎の増設に拍車を掛け人数が多い故に受験戦争のはしりの部分を演じて、就職時は内需拡大を自から起しての高度成長の真最中と常に社会のニュースソースとしてひた走りに突進して、今は昭和二世、三世の親となっております。新人類と呼ばれる若い世代が平和の内に、受験・いじめといった平和故にある内々の悩みがマスコミを賑わしておりますが、私達は、戦争経験の両親とその両親私達の祖父母に、戦争の悲しさと共に地方の習慣、出来事を語り継がれ、明治、大正、昭和と三代の人々の見方、考え方を真の辺りに見てまいりました。私達の身の廻りは、年を追う事に、豊かに、より豊かにと進歩してまいりました。しかしそこには、日本国の為に戦死した人、負傷した人、復興時の人々のひもじさとの、戦い、進駐軍による政治改革と憲法の成立、戦争賠償金の重圧と言った厳しい時代を乗り越えて来た多くの人々の力のお陰で、今日がある事を忘れてはなりません。そしてその大きな歴史の流れの上に今私達は明日に向かって多くの過去を知っている世代として、何も知らない新人類のジョイントの役目を果たし、そしてあるべき明るい未来を自から創造して、私達の出来る範囲で目一杯の努力をすべきではないでしょうか。

上市高校を卒業して二十年と言う節目を迎へ、剣岳の山ふところに抱かれた豊かな自然と、大らかな恩師に恵まれ、自から選んで入学した、上市高校の学舎を思う時、上市町と共にある母校が増々の繁栄をする事を心に願い、町の発展、富山県の発展の為に、新しい流れを作る原動力として、皆様と一緒に一生懸命にがんばりたいと思います。

卒業１０年

上市高校　第30回（昭和53年３月卒）

普通科　大井　剛

実は、前々から卒業10年の同窓会があると言うことを先輩から聞いており、その案内が来る事を心待ちにしておりましたところ、先日連絡が入りまして、案内を出す立場になり、おまけに会報を書く事になりました。

まあ、10年と言いますとひと昔前と言う事になりますが、これだけの情報化時代になりますと、ふた昔も前の事の様に思われます。

高校時代の思い出となりますと、ほんとにたくさんの思い出があり、ひとつひとつ文章にはならないくらいに色んな事がよみがえって来ます。

私がまず最初に思うのは、環境がとてもよかったと言う事です。正面には桜並木、横には上市川が流れる自然環境の中で自由奔放な高校生活をたくさんの仲間とともに過ごせたのも、上市高校の環境や校風をなくして語れないのではないかと思います。

そんななかで、３年生の時に体育大会の 100ｍ走での大会新記録は今から思えば後々に名前を残す貴重な記録だったと思います。

もうあれから10年も経ちますが、まだ体育大会の記録欄に名前が残っているんでしょうか？今では 100ｍ先に用事がある時でも車に乗っている私にとって当時の事は今でも信じられない出来事だった様に思います。

今は、夏の高校野球の真最中ですが、先日上市高校の試合を観戦に行って来ましたが、その時、校歌を10年ぶりに耳にしまして、感無量になっている自分自身に気づき、改めて10年の歳月を感じました。

今度は校歌だけでなく、10年ぶりに恩師やクラスメートに再会出来る事を楽しみにしております。

最後に卒業10年組の集いのお世話頂いた先生、世話人の皆様どうもご苦労様でした。

また、今後ますます、上市高校ならびに同窓会の御発展を心からお祈り致します。

とりとめもない事をたくさん並べたてましたがどうぞお許し下さい。

本校10年勤続受賞者

- 清　水　　勝先生
- 鍋　谷　正　成先生
- 米　山　満寿子先生
- 小　島　ヨシエ先生

婦人部の集い

今年も五月二十四日㈰大岩湯神子温泉にて第十三回婦人部の集いを開催させて戴きました。当日は藤原同窓会長を始め山本名誉会長、柳瀬学校長、富樫先生、鍋谷先生方来賓の御出席を承り、部員六十一名の参加によって盛大に行なわれました。午前は例年の如く会長先生の御挨拶、校長先生の御親切なる現況御説明、名誉会長の講話と続き、創立七十年記念事業について着々と準備が進められている事、旧女学校の創校の頃の写真（一回より四回頃制服姿は在校生、和服姿は同窓会等）の確認を致しまして午後は懇親会に入りました。御指名に依り還暦を過ぎた私が司会を担当させて戴きましたのは、過日、在校当時昭和十五年に発行された同窓会誌第九号を見ますと、矢後先生、菅原先生の御指導で園芸部に居ります。現在活花に携って居りますので、先生は私の素質を見抜いて下さったのでしょうか、深い感銘を受け勇気がわいて来ました。御準備下さいました諸先生方、役員の皆様に心より感謝致しまして、この気持ちの万分の一でもお返しが出来たらと思って居ります。

来年もお誘い合せ下さいまして御健康で御出席下さいます様お祈り申し上げます。

上市実科高等女学校　第17回（昭和18年３月卒）

坂　井　小夜子

本校は、間もなく創校70年をむかえますが、同窓会として記念誌を発行する予定でおります。旧制農林学校、高等女学校を含め、新制高校（特に昭和23～32年ごろ）の資料が不足いたしております。旧制の校友会誌・同窓会誌・上高新聞（１号－３号）、その他バッチ、使用された教科書、教材、何でもよろしいですから、ご一報いただければ幸いです。後日お返し致しますのでよろしくお願い申し上げます。

上市高等学校内「同窓会」事務局
冨樫勇夫・泉野作雄（☎72－２３４５）